誰一人取り残されない社会

南アルプス市立白根御勅使中学校二年　　土舘　平和

人権という言葉が、SDGｓの１７の目標に出てこないため、疑問に思った僕は、もっと深く掘り下げてみることにしました。

SDGｓの目標を丁寧にターゲットまで読み進めると、１６９ターゲットの中で唯一、人権という言葉が使われていたのは、目標４の『質の高い教育をみんなに』にある４－７のみでした。持続可能な社会をつくるための教育や生活のしかた、人権や男女の平等、平和や暴力を使わないこと、世界市民としての意識、さまざまな文化があることなどを理解できる教育をすすめて、必要な知識や技術を身につけられるようにする内容が、記載されています。

僕が、SDGｓに興味を持っているのは、タイバちゃんという西アフリカの八歳の女の子へ支援団体を通して毎月、家族で寄付をしていて、暮らしを知っているからです。その地域では、SDGｓの目標が、ほとんど、達成できていないと思いました。中でも、目標４の『質の高い教育をみんなに』を考えてみても、タイバちゃんの地域では、農業を手伝うためや女の子だからというだけで、学校へ行かせてもらえない子たちが多いのです。読み書きができない１５歳以上の住民の割合は、７４％だと知り、とても驚きました。

そのため、支援団体の取り組みは、個々の女の子たちに支援するのではなく、地域全体の意識改革を手掛けて、持続可能な社会を目指しているのです。

支援団体より、タイバちゃんの地域の報告を受けていて、メッセージのやりとりをしています。タイバちゃんの両親は、農業で忙しいそうです。彼女は、学校へ通うのが楽しくて、理科と体育が好きだと、手紙に書いてくれました。僕たちからの返事を心待ちにしていて、質問を支援員の方と一緒に考えてくれています。僕は、タイバちゃんの笑顔があふれることを願って、英語で頑張って返事を書いているので、自分自身の勉強にもなります。

今、僕は、人権の平等という言葉が、気になっています。「人はみんな生まれながらにして自由であり平等です」と言う言葉も考えさせられます。世界の国々や地域によって生まれながらにして差別や不平等が、存在しているからです。SDGｓの理念は、二つあります。「変革すること」と、「誰一人取り残さない。取り残されない」と言う事を目指しています。タイバちゃんの西アフリカでは、SDGｓの１７の目標を一つ一つ乗り超えてゆかないと人権の平等にたどり着

かないことがわかりました。人権という言葉が、SDGｓに記載されていないのではなく、全てのアイコンが、密接に関わって、人権の土台となっているのです。

日本の中でも人権について考えてゆこうと思います。両親は、それぞれ、福祉施設に勤めています。障がいのある人と一緒に働いていると、仕事をサポートする場面があるため時々、家へ帰ってくる時間も遅くなります。障がいのある方にも平等に仕事と給料の権利を保障する考え方は、両親と何度も話し合っていますが、とても、難しい問題だと思います。サポートする人が、いつまで経っても、ミスをカバーする様に思えるからです。これは、もしかしたら、反対の意味での不平等かも知れないとさえ、思えてくるのです。障がいのある人が、僕たちに合わせるのか、僕たちが、障がいのある人に合わせるのか、こうゆう考え方自体が、差別になるのかもしれません。障がいのある人たちから見た社会の平等と、僕たちから見た障がいのある人たちの平等が違う気がします。お互いに歩み寄れたら、平和な社会になってゆくと感じています。

ここで、もう少し、SDGｓの緩やかな目標を読み解いてゆくと、考え方に変化が生まれてくるかも知れません。「一人ひとりが、違っていること」が「個性」として受け入れられて、尊重されて、能力を活かす職場にすることです。僕も両親の職場へ行ったことが何度もありますが、お互いに得意な分野で活躍できれば、人のフォローも自分の仕事のスキルアップにつながるのだとわかりました。

僕も小学校の頃は、情緒不安の症状が出ていて、支援センターへ通ったり、学校の先生や両親にサポートをしてもらいながら勉強を続けることができました。黒板の文字を自分のノートへ写すことができないため、特別にパソコンで学んだり、プリントをもらっていました。今も、SDGｓを学ぶために、オーディオブックで、田瀬和夫さん著『SDGｓ思考』の本を何度も聴いています。読むのは苦手です。聴いていると、言葉が深く、頭に浸透してくるのです。

「誰ひとり取り残さない」そして、僕も、「取り残されなかった」お陰で、今、楽しく学ぶことができています。このSDGｓの合理的配慮を多くの人々にも伝えて、全ての人が選択肢を持ち、自分らしさを発揮できる社会へとつながる様に発信してゆきたいです。